

アイヌ生活文化再現マニュアル

ペツカムイノミ

【川神祭り—新しいサケを迎える儀礼】

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに

| | | |
|-----|------------------|----|
| I | カムイノミの準備 | 9 |
| | 用具の準備 | 9 |
| II | チセでのカムイノミ | 15 |
| | オンカミの仕方 | 15 |
| | トノトのまぜ方 | 16 |
| | 始まりのカムイノミ | 20 |
| | アペフチカムイへの祈りことば | 20 |
| | 祭主の祈りことば | 24 |
| | 女性のお祈りの仕方 | 27 |
| III | 河口でのカムイノミ | 31 |
| | アペフチカムイへの祈りことば | 36 |
| | アペフチカムイへの祈りことば | 39 |
| | 四神へのカムイノミ | 40 |
| | トマリコロカムイへの祈りことば | 40 |
| | ペップトルンカムイへの祈りことば | 41 |
| | ワッカウシカムイへの祈りことば | 41 |
| | ケマコシネカムイへの祈りことば | 41 |
| | アペフチカムイへの感謝のことば | 43 |

| | | |
|----|---------------------------|----|
| IV | チセでのカムイノミ | 45 |
| | 終わりのカムイノミ | 46 |
| | アペフチカムイへの感謝のことば | 48 |
| V | シンヌラッパ（先祖供養） | 49 |
| | 準備 | 49 |
| | アペフチカムイへのシンヌラッパを執り行うことば | 51 |
| | シンヌラッパ | 54 |
| | アペフチカムイへのシンヌラッパの終了を告げることば | 57 |
| VI | ヌサ納め | 59 |
| | おわりに | 60 |
| | 参考文献 | 61 |

— 凡 例 —

- ・本マニュアルの解説書は、映像編と同様、社団法人北海道ウタリ協会登別支部が平成18年10月14日に実施した「ペッカムイノミ」の映像記録を編集したものです。
- ・儀礼の文字化にあたっては、アイヌ語名称を多く使用しました。また、映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、文言等で映像編と一部異なる個所があります。

はじめに



アイヌ風俗十二ヶ月屏風
「九月マレクにて鮭突之図」
(市立函館博物館蔵)

秋になりサケが川にのぼりはじめる頃になると、コタン（村）では一軒からひとりずつ男が出てイナウ（木幣）を削り、河口にヌササン（祭壇）を設けて神々に豊漁を祈る「ペッカムイノミ（川神の祭り—新しいサケを迎える儀礼）」が行われます。このカムイノミ（神への祈り）をしないうちには、何人もサケを捕ることが許されませんでした。この儀礼は、明治以降は自由にサケを捕ることが禁止されることにより、次第に行われなくなりました。

ペッカムイノミは、チセ（住居）でのカムイノミに始まり、河口、チセと、それぞれカムイノミを行います。また、あわせて、シンヌラツパ（先祖供養）も行います。

本マニュアルは、2007年10月に社団法人北海道ウタリ協会登別支部が実施した「ペッカムイノミ」をマニュアル化したものです。儀礼は登別市内の集会所と幌別川河口で行われ、祭主は合田克己さんが努めました。

また本マニュアルの作成にあたって、財団法人アイヌ民族博物館の協力を得ました。



河口でのカムイノミ



図1

I カムイノミの準備

用具の準備

はじめにチセでカムイノミの準備をします。儀礼に用いる用具はオッチケ（膳）にのせて用意します。（写真2）



写真2

河口のヌササンに祀る四神のイナウ*、キケバラセイナウを用意します。房をイナウキケ（削りかけ）で縛っておきます。（写真3）

四神とはトマリコロカムイ（泊の神）、ペップトルンカムイ（川尻の神）、ワッカウシカムイ（水の神）、ケマコシネカムイ（狐の神）です。

四神の従者となるストゥイナウと、河口でのカムイノミでアベフチカムイ（火の神）に捧げるチェホロカケブイナウを用意します。（写真4）



写真3



写真4

*イナウについては「アイヌ生活文化再現マニュアル イオマンテ 熊の霊送り【道具編】」を参考にしてください。

河口での儀礼を行う場所を清めるために使われるタクサ（清め草）や、チタラペ（文様の入ったゴザ）、キケパラセイナウにつけるイナウケマ（イナウの脚）もチセ内に用意します。（写真5）



写真5

河口でのカムイノミで使用するエチウシ（酒差し）とトノト（酒*）が入ったシントコ（行器）、チセでのカムイノミで用いるエトゥヌブ（片口）とトノトを汲むピサック（柄杓）を用意し、イナウキケをつけます。（写真6、7、8）



写真6



写真7



写真8

カムイノミに使用するイクパスイ(捧酒箸)とトノトを受けるトゥキ(杯)を用意し、4組ずつオッチケにのせます。(写真9) 今回は8組用意しました。



写真9

アペフチカムイに捧げるシラリ(酒粕)*を用意します。(写真10) 儀礼を執り行う1週間前に酒を醸しておき、前日に酒を漉してできたシラリをアパサムシカムイ(戸口の神)に捧げた後、カムイノミのために保存しておきます。



写真10

* トノト、シラリについては、「アイヌ生活文化再現マニュアル イオマンテ 熊の霊送り 【料理編】」を参考にしてください。

用具はロルンプライ（神窓）とアペオイ（炉）の間に敷かれたチタラペの上に置きます。チセのカムイノミで祀られるアペフチカムイのチェホロカケツイナウは、儀礼が終了するまでアペオイに立てておきます。（写真11、12、13）



写真11



写真12



写真13

屋内でのカムイノミは登別市の集会所をチセに見立てて儀礼が行われました。ロルンプライからみて右側をシソといい、祭主はシソ側のアペオイの近くに座ります。また、ロルンプライからみて左側をハラキソといいます。

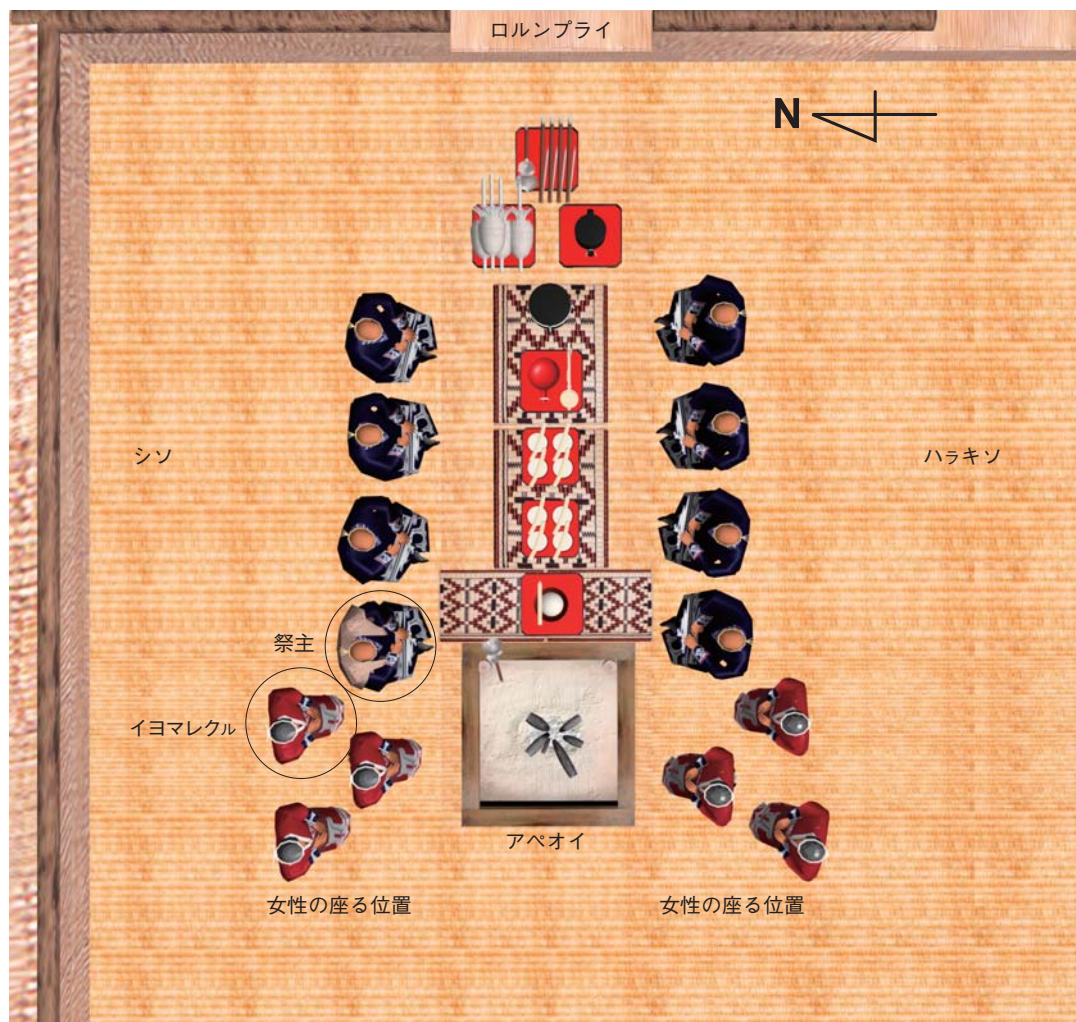


図2

II チセでのカムイノミ

参列者は皆、盛装して着座します。

祭主が「オンカミアンナー（礼拝をはじめます）」といい、参列した男性は、アペフチカムイ、トゥキ、ロールプライの順にオンカミ（礼拝）をします。（写真14）



写真14

オンカミの仕方

両手の手のひらをすり合わせながら、左右に動かし、その後手のひらを上に向けて3回程度上下させます。（写真15、16）



写真15



写真16

祭主はシラリの入ったトゥキをとります。儀礼の用具を手にとるときには、手のひらを上に向けて3回程度上下させ、持ち上げたときにも、3回程度上下させます。

イクパスイでシラリをすくい、チェホロカケブイナウにのせてアペフチカムイに捧げます。(写真17)



写真17

祭主がトゥキを戻すと、シントコの前に着座した向かい合う男性2人がオンカミをします。その後、両手のひらをこすり合わせながら、シントコの側面、そしてふたの側面の順に手の甲でさすります。

(写真18)



写真18

2人でシントコのふたをとり、オンカミをした後、ピサックを持って下図のとおり右回りに3回、左回りに3回、再び右回りに3回、トノトをまぜます。

(写真19)



写真19

トノトのまぜ方

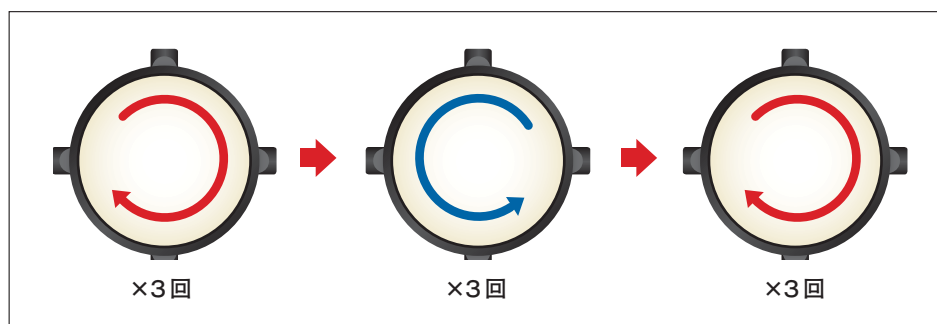


図3

ハラキソ側の男性がピサックでトノトを酌み、シソ側の男性が持つエトゥヌブに注ぎます。(写真20)



写真20

注ぎ終わると、エトゥヌブをオッチケに戻して、オンカミします。

最初に祭主のみのカムイノミを行います。祭主がイクパスイとトゥキをとります。(写真21)



写真21

祭主の「イヨマレヤン（酒を注ぎなさい）」ということばでイヨマレクル（酒を注ぐ人）がエトゥヌブを取りにいき、頭を低くしてエトゥヌブを捧げるように持って運びます。（写真22）（図4-①）イヨマレクルは男性でも女性でもかまいません。



写真22

イヨマレクルの動き（エトゥヌブを取りにいく）

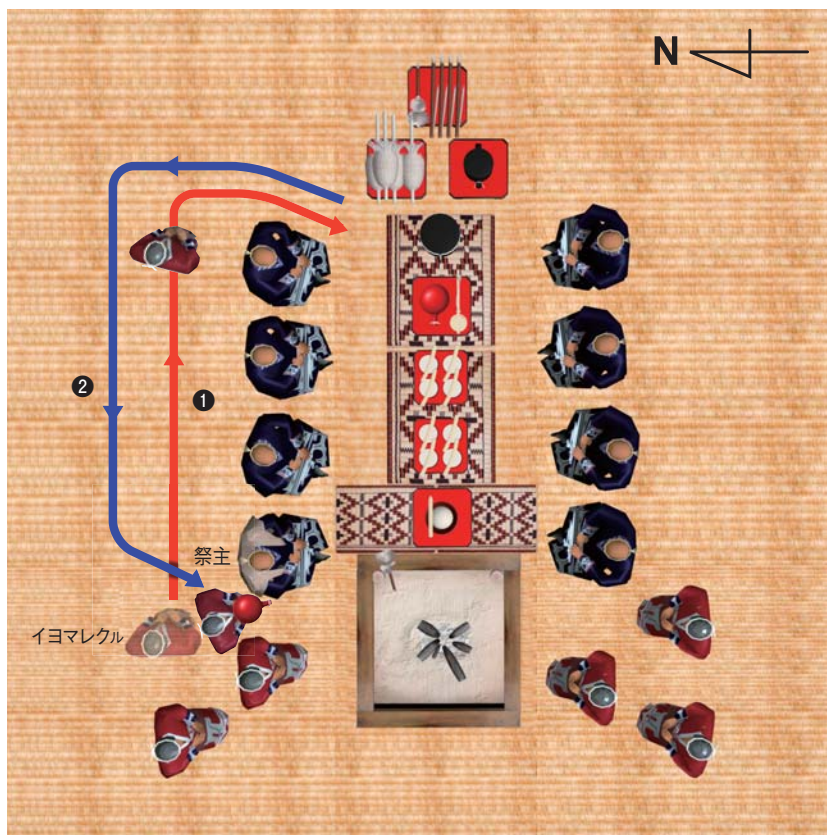


図4-①

祭主は右手にイクパスイを掲げ持ちスイエ（揺さぶる）しながら、左手でトゥキを差し出します。右手と左手が交差する形になっています。

イヨマレクルは祭主の右側からトノトを注ぎます。(写真23)

注ぎ終わるとイヨマレクルはトノトが入ったエトゥヌブを元の場所に戻します。(図4-②)

イヨマレクルは元の場所に着座したところで、「イヨマレピリカ（酒をうまく注ぎ終わりました）」といひます。祭主は「イヨマレピリカ」と受けて、アペフチカムイに対するカムイノミを始めます。

(写真25)



写真23



写真24

イヨマレクルの動き（エトゥヌブを元に戻す）

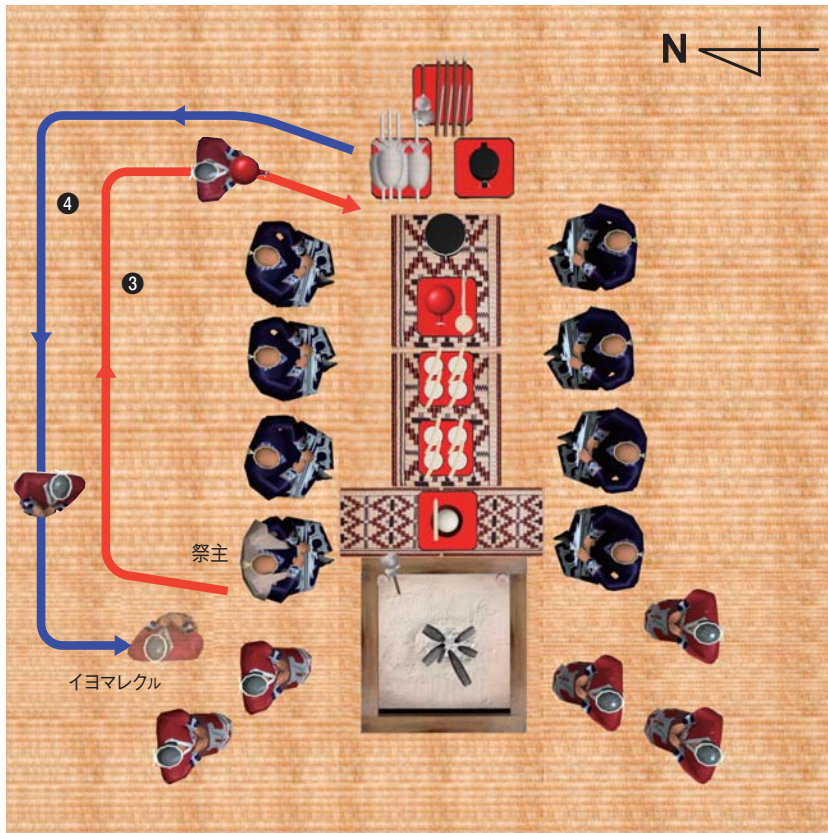


図4-②

始まりのカムイノミ

祭主はアペフチカムイにトノトを捧げたり、トウキを右手でさすりながら、「今年の豊漁と安全を願い、ペッカムイノミを行うので、儀式の間中悪い神たちがいたずらしたり、邪魔をしたりしないように見守ってください」と、祈りことばを唱えます。

(写真25)



写真25

アペフチカムイへの祈りことば

カムイフチ チランケピト
ヌプルベツ タ エコタンコロ
合田克己 クネ ア ヒネ
ニシパインネ ウタラパインネ
シラン ヒケ
イキリトウム タ ワヤサテ カ タ
ネア イノミ トノトプリ エラムベテク

オリパッペポ クネ ア ヤクン
タパンベ ネノ カムイコツチャ タ
ネア イノノ クイエ ヤッカイキ
クコヤイラメコモ ネ ワ ネ コロカ
カトツフ パテク ポロクル ラッベ
クネワ クス
アエンサケイユシテ ルウェ タパン ナ

タパンテワノ ペッカムイノミ
アキ クスネ クス
シアツパケ タ ホシキトウキ
トウルサクイナウ コエトウレンノ
エノミアシ ナ
タパンイノミ アキ ホントモ タ
ネア イララ コイサム クニ
イノミ テッサマ
カムイプンキ アン ナンコンナ

神なる媼 降臨されし御方
(私は) 登別に 居をかまえる
合田克己という者で
数多の紳士 数多の名士が
いるというのに
その中で 平凡なうえに
何らの祈り お神酒の作法もわきまえない

下座にいるはずの 私なれば
このように 神の御前で
何の祈りを いたすとしても
苦心するもの ではありませんが
格好ばかりは 年かさに見える
ものですから
祭主の役を任されました。

これより ペッカムイノミを
行いますので
一番初めに 最初の酒盃
穢れなきイナウをたずさえて
拝礼いたします。
この神事を行うあいだ
何らの障りも ございませぬよう
祈りのかたわらに
神の御加護が あらんことを。

イマカケタ タナント オッタ
イナン カムイ アノミ ヤッカ
(ウ) トウキ カ タ イナウ カ タ
(ウ) ピリカノボ オソソココテ ワ
イコレ クナク ラムヤンハニ
ネ ワ ネ ヤクン カムイ オピッタ
アイヌ ミッポ
イエ ア イタク イキヤッカイキ
コホサヨパ ワ チヤイコルシカ
アイエカラカラ クニブ ネ ナ

クイエ ア イタク ハイタヤッカ
シパセカムイ エネ ワ クス
クケウトムフ クシナヌカラ クシナムキリ
エキ クニブ ネ ルウェ タパン ナ。
ハ エエエ!

※以下、祭主の祈りことばは財団法人アイヌ民族博物館 北原次郎太氏作成

さらにまた 今日のこの日に
いずれの神に 祈ろうとも
酒盃の上に イナウの上に
ねんごろに ことづてをして
下さいますよう 思し召してください
そうしたならば 神々もみな
人間の子が
述べた言葉であろうとも
振り向いて 気持ちを汲んで
くださるのですよ。

私が申す言葉が 足りなくとも
真の重き神たる 貴方ですから
私の思いを 見通され よくお分かりになって
くださるものなのですよ。
は えええ!

祈りことばを唱えた後、祭主はアペフチカムイに
捧げたトノトを自らもいただきます。(写真26)



写真26

祭主のカムイノミが終わると、男性の参列者がア
ペフチカムイや四神の他、様々な神に対してカムイ
ノミを行います。

男性の参列者は、祭主の「イヨマレヤン」という
ことばでイクパスイとトゥキをとります。(写真27)



写真27

イヨマレクルはトノトの入ったエトウヌブを運び、祭主から順にトノトを注いでいきます。(写真28)



写真28

シソ側の男性にトノトを注ぎ終わると、ハラキソ側に回ります。(図5-①)

イヨマレクルの動き (シソ側からハラキソ側へ移動)

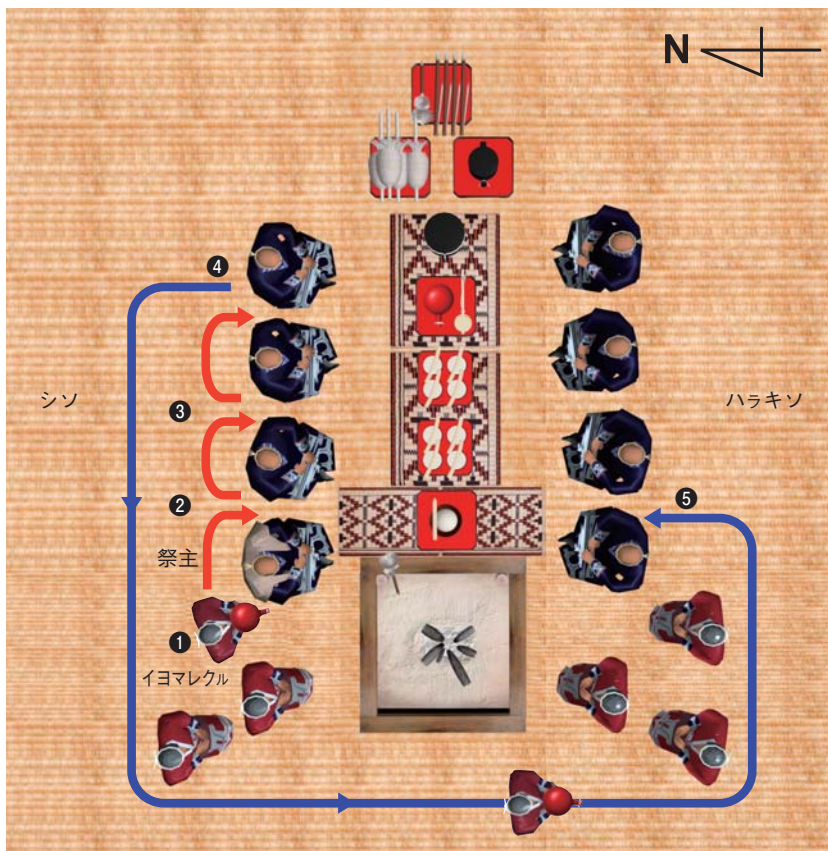


図5-①

イヨマレクルはエトゥヌブを戻して、元の場所に戻り、着座して「イヨマレピリカ」といいます。
 イヨマレクルのこつばの後、祭主が「イヨマレピリカ」と受け、男性の参列者はカムイノミを
 始めます。(写真29) (図5-②)



写真29

イヨマレクルの動き (元の場所へ戻る)

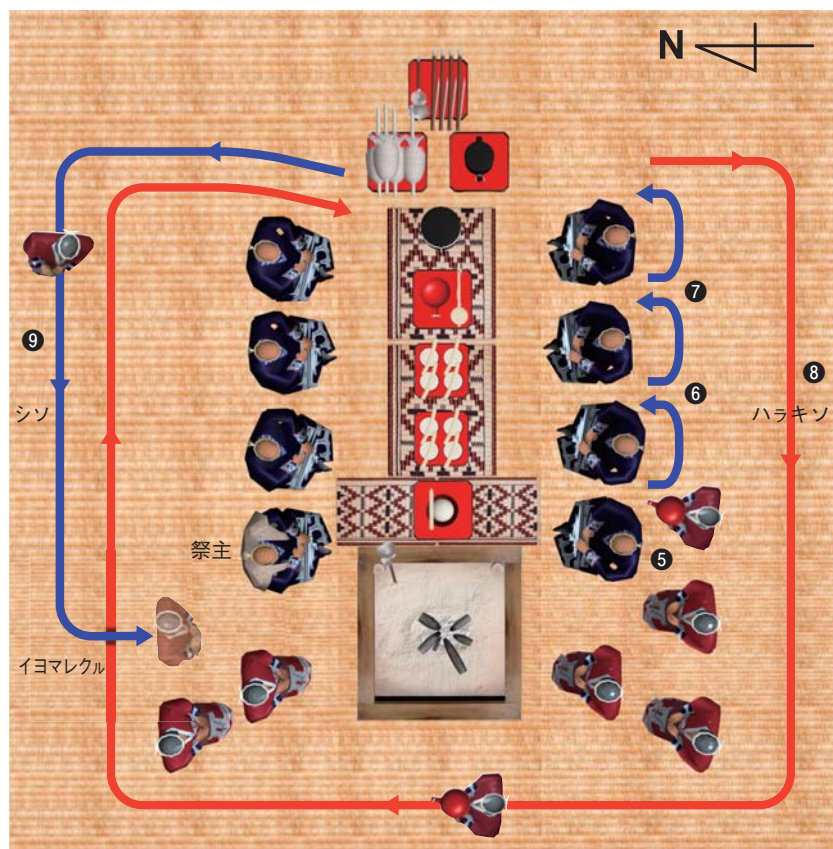


図5-②

祭主は、アペフチカムイに対して、「他の者たちもそれぞれの関係する神々へお祈りをするので、その神様へ伝えてください」と唱えます。

祭主の祈りことば

カムイフチ チランケピト
タパンテワノ ペッカムイノミ
アキ クスネ クス
タパンイノミ アキ ホントモ タ
ネフ イララ コイサム クニ
イノミ テッサマ
カムイブンキ アン ナンコンナ

イマカケタ タナント オッタ
イナン カムイ アノミ ヤッカ
(ウ) トウキ カ タ イナウ カ タ
(ウ) ピリカノポ オソンココテ ワ
イコレ クナク ラムヤンハニ
ネ ワ ネ ヤクン カムイ オピッタ
アイヌ ミッポ
イエ ア イタク イキヤッカイキ
コホサヨパ ワ チヤイコルシカ
アイエカラカラ クニフ ネ ナ

クイエ ア イタク ハイタヤッカ
シパセカムイ エネ ワ クス
クケウトウムフ クシナヌカラ クシナムキリ
エキ クニフ ネ ルウエ タパン ナ。
ハ エエエ!

神なる媼 降臨されし御方
これより ペッカムイノミを
行いますので
この神事を行うあいだ
何らの障りも ございませぬよう
祈りのかたわらに
神の御加護が あらんことを。

さらにまた 今日のこの日に
いずれの神に 祈ろうとも
酒盃の上に イナウの上に
ねんごろに ことづてをして
下さいますよう 思し召してください
そうしたならば 神々もみな
人間の子が
述べた言葉であろうとも
振り向いて 気持ちを汲んで
くださるのですよ。

私が申す言葉が 足りなくとも
真の重き神たる 貴方ですから
私の思いを 見通され よくお分かりになって
くださるものなのですよ。
は えええ!

男性の参列者はアペフチカムイへ、そしてそれぞれ関係する神々へ、豊漁と漁の安全などを祈願します。(写真30)



写真30

神々に捧げたトノトを男性の参列者もいただき、女性にイクパスイとトノトの入ったトゥキを渡します。(写真31)



写真31

女性もアペフチカムイへ、そしてスワツカムイ（炉鉤の神）など日々の生活に関係の深い神々にトノトを捧げます。

次に、セレマクカムイ（自分を守護する神）にトノトを捧げながら、日々の生活が何事もなく無事であることへの感謝をします。（写真32、33）



写真32



写真33

女性のお祈りの仕方

うなじのあたりに座しているといわれるセレマクカムイへ、左右の肩ごしにトノトを捧げます。(写真34、35)



写真34



写真35

ライミク（鼻の下を人差し指で、こするような仕草）をし、最後にトノトをいただいて、女性の祈りは終了します。(写真36)



写真36

イクパスイとトゥキは男性の参列者に戻され、残ったトノトはアペオイの内側に撒かれます。

イクパスイとトゥキがオッチケに戻されると、チセのカミノミは一旦終了します。続いて河口へ移動するため、用具を運び出します。

男性は用具にオンカミをして、オッチケごと持ち上げ、頭を低くし、膝を曲げて3回程度上下します。(写真37)



写真37

頭を低くし、腰を落としながら運び、ロールプライから外にいる男性に渡します。(写真38)



写真38

外にいる男性もオンカミをして用具を受け取ります。(写真39、40)



写真39



写真40

Ⅲ 河口でのカムイノミ



幌別川河口付近

幌別川河口でのカムイノミの準備です。カムイノミを行う場所はタクサで、「フッサ、フッサ」と唱えながら地面を掃き清めます。
(写真41)



写真41

河口に向かって東側にヌササンを設けます。先がY字型になった木を2本立て、横棒を渡します。立てた2本の棒の間にチタラベを取り付けます。
(写真42)



写真42

チセから運んだトゥキやイクパスイはオッチケにのせ、ヌササンに向かって左側に置きます。

(写真43、44)



写真43



写真44

イナウケマにキケパラセイナウを付けます。

(写真45)

キケパラセイナウとイナウケマの斜めに切った部分を合わせ、その上に細長くむいた樹皮（多くはヤナギの皮）を巻いて固定させます*。



写真45

*イナウについてはアイヌ生活文化再現マニュアル イオマンテ 熊の霊送り【道具編】を参考にして下さい。

キケパラセイナウをヌササンに立てます。このときイナウの房を縛ってあったイナウキケを外します。(写真46)



写真46

四神とそれぞれの従者のイナウをヌササンに立てます。写真左からトマリコロカムイ、ペップトルンカムイ、ワッカウシカムイ、ケマコシネカムイの四神です。(写真478)



写真47



参列者が着座し、カムイノミが始まります。



図6

参列した男性は祭主の「オンカミアンナー」ということばでオンカミをします。
 続いて祭主がイクパスイとトッキを持ち、「イヨマレヤン」といいます。
 イヨマレクルは立ち上がってエチウシを取りにいき、祭主の右側からトノトを注ぎます。

(写真48) (図7-①)



写真48

イヨマレクルの動き (エチウシを取りに行く)

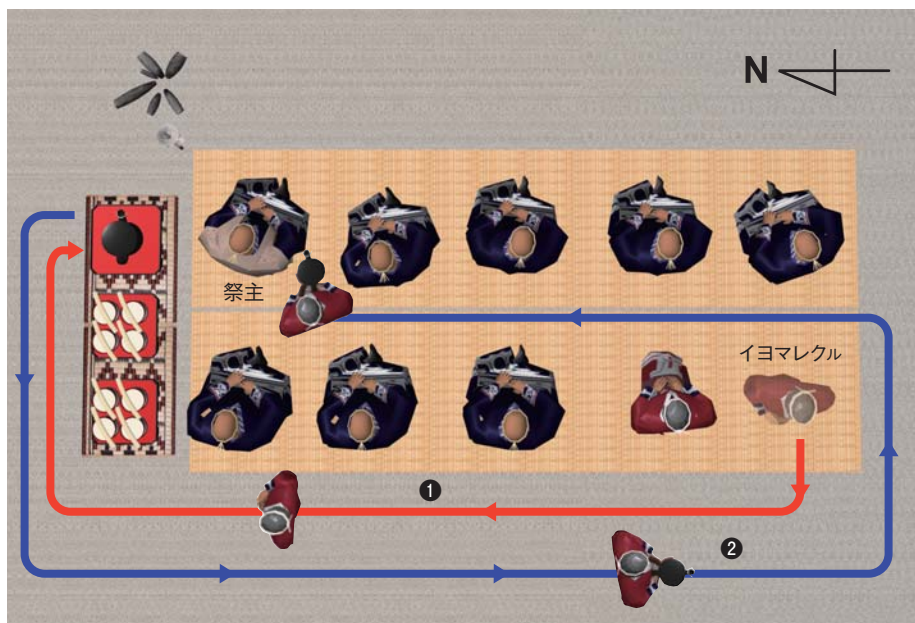


図7-①

イヨマレクルが元の場所に戻り、「イヨマレピリカ」というと、祭主が「イヨマレピリカ」と受けて、アペフチカムイに対してカムイノミを始めます。(写真49) (図7-②)



写真49

イヨマレクルの動き (元の場所へ戻る)

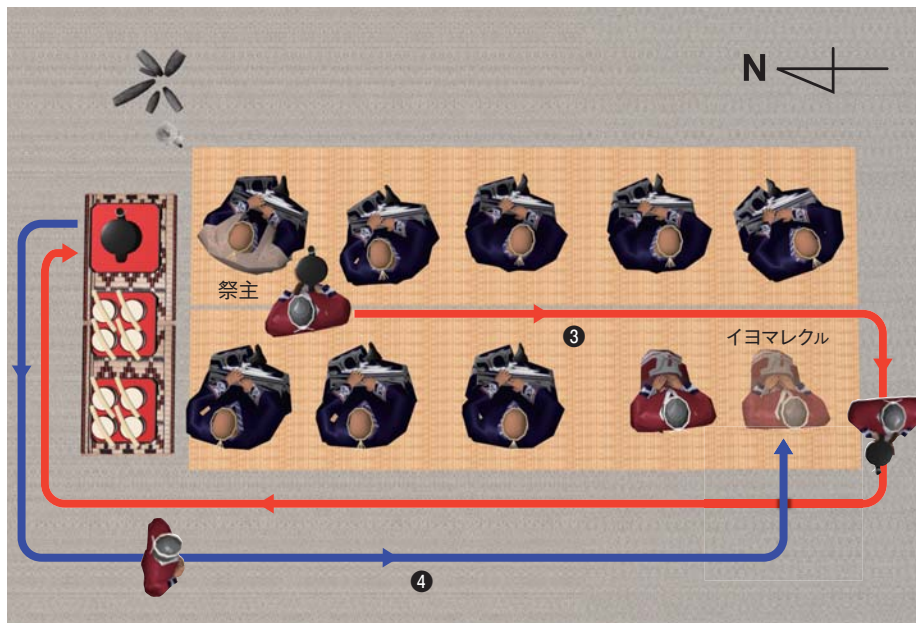


図7-②

祭主は儀礼のあいだ中、悪い神たちがいたずらしたり、邪魔をしたりしないように見守っていただくよう唱えます。

アペフチカムイへの祈りことば

カムイフチ チランケピト
タパンテワノ ペッカムイノミ
アキ クスネ クス
タパンイノミ アキ ホントモ タ
ネフ イララ コイサム クニ
イノミ テッサマ
カムイブンキ アン ナンコンナ

イマカケタ タナント オッタ
イナン カムイ アノミ ヤッカ
(ウ) トッキ カ タ イノウ カ タ
(ウ) ピリカノポ オソソココテ ワ
イコレ クナク ラムヤンハニ

ネ ワ ネ ヤクン カムイ オピッタ
アイヌ ミッポ
イエ ア イタク イキヤッカイキ
コホサヨパ ワ チヤイコルシカ
アイエカラカラ クニフ ネ ナ

クイエ ア イタク ハイタヤッカ
シパセカムイ エネ ワ クス
クケウトウムフ クシナヌカラ クシナムキリ
エキ クニフ ネ ルウェ タパン ナ。
ハ エエエ！

神なる媼 降臨されし御方
これより ペッカムイノミを
行いますので
この神事を行うあいだ
何らの障りも ございませぬよう
祈りのかたわらに
神の御加護が あらんことを。

さらにまた 今日この日に
いずれの神に 祈ろうとも
酒盃の上に イノウの上に
ねんごろに ことづてをして
下さいますよう 思し召してください

そうしたならば 神々もみな
人間の子が
述べた言葉であろうとも
振り向いて 気持ちを汲んで
くださるのですよ。

私が申す言葉が 足りなくとも
真の重き神たる 貴方ですから
私の思いを 見通され よくお分かりになって
くださるものなのですよ。
は えええ！

祈りことばを唱え終わると、祭主はアペフチカムイに捧げたトノトを自らもいただきます。
(写真50、51)



写真50



写真51

続いてヌササンに祀られた四神へのカムイノミを行います。祭主の後ろにいる男性が四神を担当する男性それぞれにイクパスイとトゥキを渡します。

祭主が「イヨマレヤン」というと、イヨマレクルが立ち上がり、エチウシを取りにいき、祭主から順にトノトを注いでいきます。(写真52) (図8-①、②)



写真52

イヨマレクルの動き (注ぐ順番)

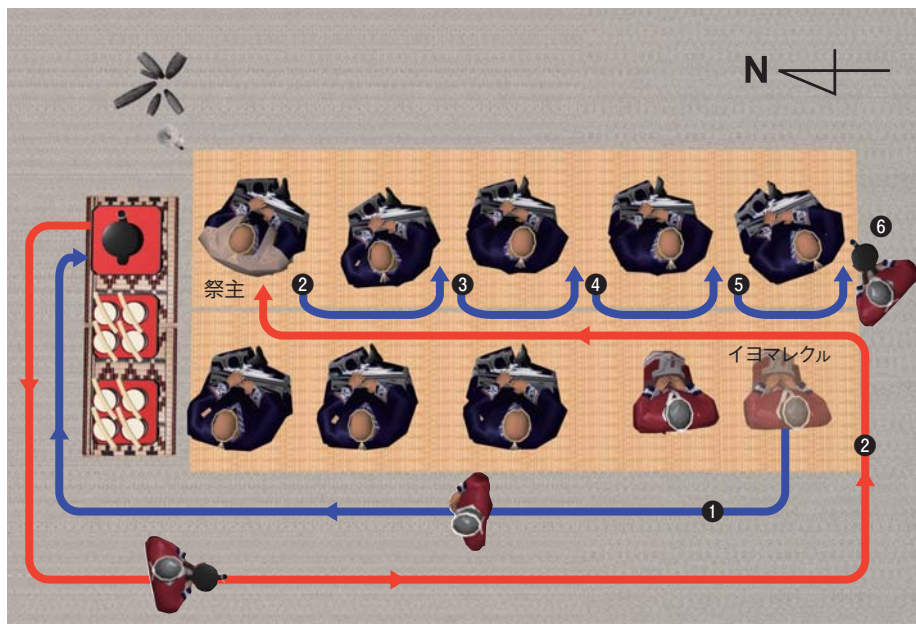


図 8-①

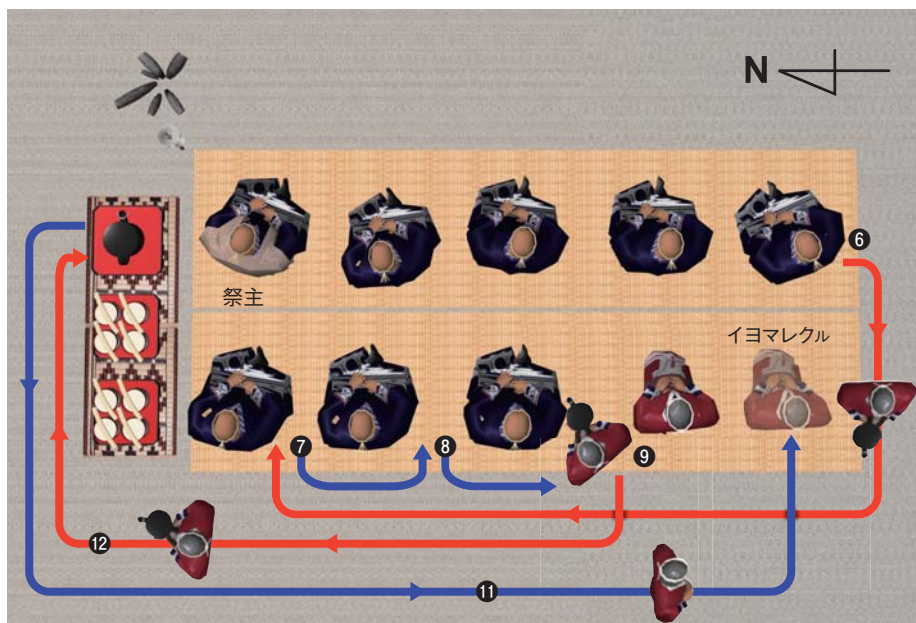


図 8-②

イヨマレクルが元の場所に戻り、「イヨマレピリカ」というと、祭主は「イヨマレピリカ」と受けます。

四神の担当者がカムイノミをしているあいだ、祭主は着座したまま、アペフチカムイに祈りのことばを唱えます。(写真53)



写真53

アペフチカムイへの祈りことば

カムイフチ チランケピト
タパンテワノ ペッカムイノミ
アキ クスネ クス
タパンイノミ アキ ホントモ タ
ネブ イララ コイサム クニ
イノミ テッサマ
カムイブンキ アン ナンコンナ

イマカケタ タナント オッタ
イナン カムイ アノミ ヤッカ
(ウ) トウキ カ タ イノウ カ タ
(ウ) ピリカノポ オソソココテ ワ
イコレ クナク ラムヤンハニ

ネ ワ ネ ヤクン カムイ オピッタ
アイヌ ミッポ
イエ ア イタク イキヤッカイキ
コホサヨパ ワ チヤイコルシカ
アイエカラカラ クニブ ネ ナ

クイエ ア イタク ハイタヤッカ
シパセカムイ エネ ワ クス
クケウトムフ クシナヌカラ クシナムキリ
エキ クニブ ネ ルウェ タパン ナ。
ハ エエエ!

神なる嫗 降臨されし御方
これより ペッカムイノミを
行いますので
この神事を行うあいだ
何らの障りも ございませんよう
祈りのかたわらに
神の御加護が あらんことを。

さらにまた 今日この日に
いずれの神に 祈ろうとも
酒盃の上に イノウの上に
ねんごろに ことづてをして
下さいますよう 思し召しください

そうしたならば 神々もみな
人間の子が
述べた言葉であろうとも
振り向いて 気持ちを汲んで
くださるのですよ。

私が申す言葉が 足りなくとも
真の重き神たる 貴方ですから
私の思いを 見通され よくお分かりになって
くださるものなのですよ。
は えええ!

四神へのカムイノミ

最初にトマリコロカムイの担当者がヌササンに向かい、祈りことばを唱えながら、トノトをイクパスイにつけて捧げます。(写真54)

従者のイナウにもトノトを捧げます。



写真54

次にイナウの房の先をトゥキの内のトノトに浸し、その房の先を持ち上げて、イナウの頭頂部にトノトをつけます。次にイナウケマとつないだ部分にも房の先でトノトをつけます。(写真55)

イナウにトノトを捧げた後、担当者もトノトをいただきます。残ったトノトは、ヌササンの手前下の地面に撒きます。



写真55

トマリコロカムイへの祈りことば

チェブ アアッテ ワ
アコロ アトゥイ ネ ヤッカ
カムイチェブ ウタラ アラキ チキ
トマリ コロ カムイ
アコロ トマリ オルン
カムイチェブ ポロンノ アフア クニ
キ ワ イコロパレ ヤン
アオンカミ ナー

漁期がきて
私どもの海にも
神魚たちが立ちまわったから
海の神様よ
私どもの泊へも
神魚がうんと入ってくるように
お願いいたします
私は礼拝いたします

次にペップトルンカムイの担当者がヌササンに向かい、トノトを捧げながらカムイノミを行います。

ペップトルンカムイへの祈りことば

ペップ ム チキ
カムイチェブ ウタラ
ヘメシバ エアイカブ クス
ペップトルン カムイ
ペップ ム カ ソモ キ クニ
エプンキネ ワ イコロパレ ヤン
アオンカミ ナー

川尻が塞がると
神魚たちは
のぼれないから
川尻の神様よ
どうぞ川尻が塞がらぬように
気をつけてください
私は礼拝いたします

3番目に、ワッカウシカムイの担当者がヌササンに向かい、同様にカムイノミを行います。

ワッカウシカムイへの祈りことば

イチャン オルン ワッカウシ カムイ
カムイチェブ ウタラ
ヘメシバ ナンコロ クス
ベトッタ イチャツケレブ ソモ アアヌ クニ
アホンヒ シツチャシヌレ ワ
カムイチェブ ウタラ ポロンノ ヘメシバ クニ
イチャン カラ クニ キ ワ イコロパレ ヤン
アオンカミ ナー

ホリ場の水の神様よ
神魚たちは
上ってくるから
川の中に汚い物を おかぬように
自分の腹の中を よく片づけておいて
神魚たちがたくさん上るように
ホリを掘らせてください
私は礼拝いたします

最後に、ケマコシネカムイの担当者がヌササンに向かい、カムイノミを行います。

ケマコシネカムイへの祈りことば

キモイキ ヒタ ネ ヤッカ
エキムン ヒタ ネ ヤッカ
エアニ アナッネ
イヨッタ アイヌ オルン
イソサンケ カムイ エネ クス
タンチュブ カ イソ アン クニ
イシッカシマ ワ イコロパレ ヤン
アオンカミ ナー

海の漁に限らず
山の猟に限らず
あなたが
一番人間に
猟を授ける神だから
この月もどうか猟のあるように
油断なく見守ってください
私は礼拝いたします

※ 四神への祈りことばのアイヌ語については、知里真志保 著「アイヌの鮭漁—幌別における調査—」
『知里真志保著作集』3 平凡社1973
を基に社団法人北海道ウタリ協会登別支部が作成。

四神へのカムイノミの後、担当者以外の男性の参列者がそれぞれ、神々にカムイノミを行います。

(写真56、57)



写真56



写真57

祭主以外の男性の参列者はイクパスイとトゥキを順に送りながら元の場所に戻します。

祭主が河口での儀礼の終わりのカムイノミを行います。

祭主が「イヨマレヤン」というと、イヨマレクルは立ち上がり、祭主にトノトを注ぎます。(写真58)

※イヨマレクルの動きは34、35ページ図7を参照してください。

イヨマレクルが元の場所に着座して「イヨマレピリカ」というと、祭主は「イヨマレピリカ」と受けます。



写真58

祭主はアペフチカムイに、無事儀礼が終了できたことへの感謝のことはを唱えます。(写真59)



写真59

アペフチカムイへの感謝のことは

カムイフチ
タネ アナクネ カムイ オピッタ
シロマイナウ シロマトウキ
アウレンカレ シリ ネ ルウェ タパン
カムイ プンキ シロマ クス
タパン イノミ ホントモ タ
ネフ コイサムノ (ウ) アブンノポ
イノミアン ナ

タパン トウキ タパンペ アリ
タパン イノミ アハマカ クス
カムイフチ チランケピト
カムイオイナマツ
オリパッペボ クネ ヤッカイキ
キロンナワノ ヤイライケ ケウトウムトゥラ
エノミアシ ナ

神なる媼
いまや 神々みなに
立派なイナウ 立派な酒盃を
揃え終わった次第です。
神の御加護もゆるぎなく
この神事のあいだに
何事もなく つつがなく
執り行いました。

これなる酒盃 これを以って
この神事を 終えますので
神なる媼 降臨された御方
神なる淑女
下座にいるはずの 私でございますが
心底より 感謝の 気持ちとともに
拝礼します。

祭主が感謝のことばを唱え終わると、イクパスイとトゥキを元の場所に戻します。男性の参列者は、祭主の「オンカミアンナー」ということばで、ヌササン、トゥキ、アペフチカムイに対して順にオンカミをします。(写真60)



写真60

男性の参列者のオンカミの後、祭主はアペフチカムイに再度感謝のことばを述べて、立ててあったチェホロカケブイナウを納め、「イヤイライケレ（ありがとうございました）」といいながら、オンカミをします。(写真61、62)



写真62



写真61

男性の参列者は手をこすり合わせ続け、チェホロカケブイナウに火がつき、炎があがったときにオンカミをします。

これで河口でのカムイノミは終了となります。

IV チセでのカムイノミ

河口でのカムイノミが終了すると、使った用具などをロルンプライからチセに戻します。(写真63)



写真63

受け取った用具は頭を低くして腰を少し落としながら運び、膝を屈伸させながら、3回程度上下させて置き、オンカミをします。(写真64、65)



写真64



写真65

チセの東側に設けた仮のヌササンに四神と従者のイナウを立てます。タクサは前に置きます。(写真66)



写真66

終わりのカムイノミ

戻した用具をロルンプライとアペオイの間に置いて、河口でのカムイノミが終了したことを報告するカムイノミを行います。(写真67)

祭主が「オンカミアンナー」というと、男性の参列者全員でアペオイ、トゥキ、ヌササンに対し順にオンカミをしてイクパスイとトゥキを取ります。



写真67

祭主の「イヨマレヤン」の発声でイヨマレクルが、エトウヌブを取りにいきます。(写真68)



写真68

イヨマレクルは最初に祭主にトノトを注ぎ、次いでシソ側の男性、ハラキシ側の男性に注ぎます。エトウヌブを戻し、元の場所に着座して「イヨマレピリカ」というと、祭主が「イヨマレピリカ」と受けます。(写真69、70)



写真69



写真70

祭主はトノトを捧げながら、「他の者たちも関係する神々にお礼の言葉を贈りますので、それぞれの神様へお伝えください」とアペフチカムイへ祈ります。

※アペフチカムイの祈りことばは43ページを参照してください。

男性の参列者も、同じようにトノトを捧げながら、「これで、河口での今年の豊漁と漁の安全を願うペッカミノミが無事終了しました。この儀礼のあいだ、悪い神様たちがいたずらをしたり、邪魔をしたりしないように見守ってくれてありがとうございました」ということばをアペフチカムイと四神に祈ります。祈りを終わると、捧げたトノトをいただきます。(写真71)



写真71

その後で、男性の参列者は女性にイクパスイとトゥキを渡します。女性も、日々の生活に関係の深い神々やセレマッカムイにトノトを捧げ、感謝します。

※女性のお祈りの仕方は28ページを参照してください。

女性のお祈りが終わると、祭主以外のイクパスイとトゥキをオッチケに戻し、祭主の「イヨマレヤン」ということばで、再びイヨマレクルがトノトを取りにいきます。イヨマレクルの「イヨマレピリカ」ということばを受け、祭主は「イヨマレピリカ」といい、アペフチカムイへ感謝のことばを唱えます。

アペフチカムイへの感謝のことば

カムイフチ
タネ アナクネ カムイ オピッタ
シロマイナウ シロマトウキ
アウレンカレ シリ ネ ルウエ タパン

カムイ プンキ シロマ クス
タパン イノミ ホントモ タ
ネ コイサムノ (ウ) アブソノポ
イノミアン ナ

タパン トウキ タパンペ アリ
タパン イノミ アヘマカ クス
カムイフチ チランケピト
カムイオイナマツ
オリパッペボ クネ ヤッカイキ
キロンナワノ ヤイライケ ケウトウムトゥラ
エノミアシ ナ

エコラ パクサ エクンチケセ
エエシパケシ コオンカミレ
キ ワ ネ ヤクン シネア シリ ネ
カムイ プンキ シロマ ナンコロ
カンナカンナ サケ アカラ ヤクン
エノミアシ ナンコロ

タナント アナク タパン トウキ
タパンペ アリ タパン イノミ
ホピタ カトゥ ネ ルウエ タパン ナ
ハ エエエ!

祈りを終えると、祭主はトノトをいただき、3度トウキを上下させてから、オッチケに戻します。

祭主の「オンカミアンナー」のことばで、男性の参列者はヌササン、トウキ、アペフチカムイに対し順にオンカミをしてペッカマイノミを終了します。

(写真72)

神なる媼
いまや 神々みなに
立派なイナウ 立派な酒盃を
揃え終わった次第です。

神の御加護もゆるぎなく
この神事のあいだに
何事もなく つつがなく
執り行いました。

これなる酒盃 これを以って
この神事を 終えますので
神なる媼 降臨された御方
神なる淑女
下座にいるはずの 私でございますが
心底より 感謝の 気持ちとともに
拝礼します。

あなたの従神 配下の方々にも
貴方の飲みさしを 受けさせ
給うなら
神の御加護が ゆるがぬものになるでしょう。
またふたたび 御神酒を醸しましたら
礼拝することでしょう。

本日は これなる酒盃
これを以って この神事も
終わった次第でございます。
は えええ!



写真72

V シンヌラッパ (先祖供養)

準備

続いてシンヌラッパを行います。シンヌラッパは大きな儀礼があるときに付随して行われます。食物は伝統的な料理の他、菓子類も用意します。(写真73、74、75、76)



写真73



写真74



栓を開けた酒など飲物類 写真75



写真76

シンヌラッパ用にチェホロカケブイナウを6本用意します。(写真77)



写真77

シンヌラッパの用具や食物等は、ロルンプライとアペオイの間に並べます。(写真78)



写真78

男性の参列者はサパンペ(冠)をとり、祭主の「オンカムアンナー」ということばで、アペフチカムイ、トゥキ、ヌササンにオンカミをします。

「イヨマレヤン」ということばで、イヨマレクルがエトウヌブを取りにいき、祭主のトゥキにトノトを注ぎます。

イヨマレクルが着座し「イヨマレピリカ」といい、祭主が「イヨマレピリカ」と受けます。(写真79)
※イヨマレクルの動きは14,19ページ図4-①、②を参照してください。



写真79

祭主はアペフチカムイにトノトを捧げながら、シンヌラッパを始めることを告げ、先祖へ食物を無事に届けてくれるよう、お願いします。(写真80)



写真80

アペフチカムイへのシンヌラッパを執り行うことば

カムイフチ テエタ アナクネ
チセ ピシノ アキ ロク ペ シンリッノミ
シンヌラッパ (ウ) ネ ロク コロカ
タネ アナクネ
シサムイレンカ ユフケ ヒケ (ヒネ)
イノミプリ トノトプリ
エアシカイクル ケミアンクス
タパンコラチ ペッカムイノミ
シパセイノミ テクサマ タ
アキ ロク カトウ ネ ワ ネ コロカ
ネフ イララ アキ ロク カトウ
ソモ タパン ナ

タパン ウシケ カムイフチ
ピリカノポ エラマン ワ
タパン ソナピ タパン イナウ
シロマ アシコロ
シンリッモシリ コレシパ クニ
タパン イノミ イノミ テクサマ
チコブンキネ イエカラカラ

タパン コラキ
イノウサンテク カスフサンテク
ウカスイ キ ワ
タパン イノミ アエピシテフ
トゥルサウイナウ イマカケタ
ウサ「 」
ウサ「 」
ウサ「 」
ネルウエ ネ ナ

タフ オピッタ シンリッオッタ シレパ クニ

カムイサンニヨ アン ナンコンナ

ハ エエエ!

神なる媼 その昔には
家ごとに 行っていた 先祖への祈り
シンヌラッパではありませんが
いまや
日本の習慣がさかんになり
祈りの作法 お神酒の作法
をわきまえたものも 少ないので
このように ペッカムイノミ
重き神事の はしそばで
行う事になりましたが
何の戯れをしていること
でもございませぬ。

この点を 神なる媼よ
どうぞよくよく お汲みになって
このお供物 このイナウ
上等の美酒が
先祖の世界へ 届くように
この神事のかたわらに
御加護を たまわらんことを。

このように
男の末裔 女の末裔が
協力し合って
この神事のためにそろえたものは
穢れなきイナウ それから
「 」や
「 」や
「 」※
でございます。

※ 「 」の中に先祖に送る供物の名前を入れます。

これらすべて先祖のところに届くように

神の御配慮が あらんことを。

は えええ!

祭主は祈りことばを唱えながら、アペフチカムイに塩、タバコ、小魚、酒などとともに、用意してあった食物を捧げます。食物は、祭主自らもいただきます。(写真81)



写真81

シンヌラッパの始まりを告げるカムイノミが終わると、トノト、イナウ、食物などを屋外のヌササンに運びます。参列者は外のヌササンに向かいます。(写真82、83)



写真82



写真83

祭主は、アペフチカムイをひとりにしないように、チセに残ります。(写真84)



写真84

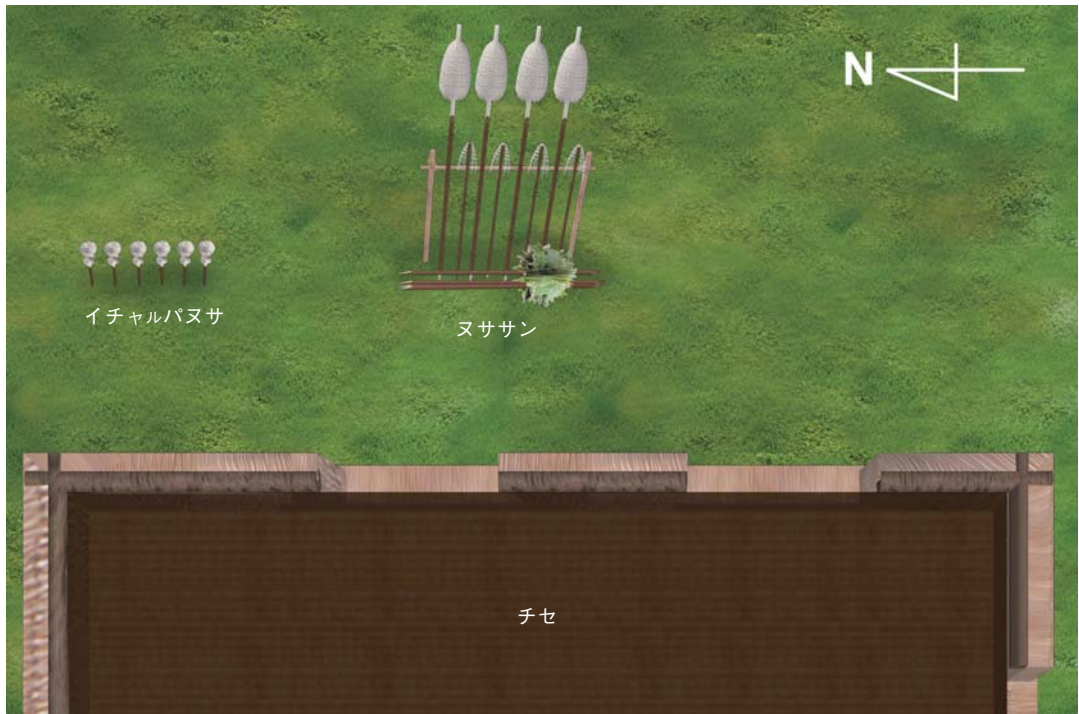


図9

チェホロカケブイナウをイチャルパヌサ（シンヌラツパ用の祭壇）に立てます。登別ではイチャルパヌサのそばでは火を使いません。トウキ、食物などイチャルパヌサの前に置きます。
 (写真85、86)



写真85



写真86

シンヌラツパ

女性も男性もイナウにトノトを捧げ、食物をチャルパ（撒く）します。

(写真87)



写真87

「私は〇〇の子孫の〇〇です。食物を送りますので味わってください。また、私たちの暮らしをお守り下さい。」と唱えながら、トノトと食物を送ります。

このとき、食物を割ったり、崩したりしてチャルパします。捧げた食物の残りを自分も食べて、先祖と恵みを分かちあいます。(写真88、89、90)



写真88



写真89



写真90

トノトや食物を送り終えると、参列者は先祖や神々とともに唄や踊りを楽します。

(写真91、92、93、94)



写真91



写真92



写真93



写真94

舞踊が終わると参列者はチセに戻り、祭主がシンヌラッパの終わりをアペフチカムイに報告します。

(写真95)



写真95

アペフチカムイへのシンヌラッパの終了を告げることば

カムイフチ タネ アナッネ
シンヌラッパ オロアブノ
アヘマカ シリ ネ ヒ タパン ナ

コラムシンネ アキ ワ クス
オリパク トウラ ヤイライケ イタク
クイエ ハウエ タパンナ ハ エエエ!

神なる媪 いまや
先祖の祭祀も つつがなく
終えた次第で ございます。

ようやく安堵いたしましたので
おそれながら
感謝の言葉を申し上げる次第です。 は えええ

祭主が感謝のことばを唱え、祭主自らもトノトをいただきます。イクパスイとトゥキを戻し、祭主は「オンカミアンナー」といい、男性の参列者はヌササン、トゥキ、アペフチカムイに対して順にオンカミします。

「シパセカムイ イヤイライケレ（真の重き神よ ありがとうございます）」と感謝のことばを唱えて、アペフチカムイにチェホロカケブイナウを納め、儀礼を終了します。(写真96、97)



写真96



写真97

VI ヌサ納め

今回、儀礼を行った会場にはヌササンを立てておくことができません。そのため、登別支部では地域内で粗末にされない場所にヌササンを設けて、儀礼を実施するたびにイナウなどを納めています。

会場のヌササンを解体し、イナウなどを運びます。
(写真98)



写真98

ヌササンに今回のイナウを納めます。

四神と従者のイナウ、シンヌラップで使ったイナウにサケチッカ（酒をしたたらす）をし、オンカミをして終了します。(写真99、100)



写真99



写真100

おわりに

昔、秋になると幌別川にもサケが満ち溢れていました。サケを、「シペ（本来の食べ物または真の食べ物）」と名づけたり、特別に尊重し別格に扱おうとして「カムイチェプ（神の魚）」と呼んでいました。

重要な食料であるサケが川に遡らない年は飢饉と感じていたに違いありません。それゆえにペッカミノミで豊漁を祈り、漁に向かったのです。

ペッカミノミは、本来、少人数で行われたようです。今回は登別支部が20年前からアイヌ文化の伝承と啓蒙活動のために実施してきた儀礼をマニュアルとして再現しました。



参 考 文 献

ペッカムイノミの実施にあたって、参考となる文献を紹介します。

- アイヌ文化保存対策協議会編
1969：『アイヌ民族誌』第一法規出版
*上編「漁獵」、下編「その他のカムイノミ」
- 犬飼哲夫
1941：「シシャモカムイノミ（柳葉魚祭）」『北方文化研究報告』5 北海道帝国大学
1954：「アイヌの鮭漁に於ける祭事」『北方文化研究報告』9 北海道大学
- 久保寺逸彦
1953：「アイヌの川漁」『視聴覚教育』7-12 日本映画教育協会
(2004：『アイヌ民族の文学と生活』久保寺逸彦著作集2 草風館 所収)
- 札幌アイヌ文化協会
2004：『アシリチェップノミの記録』札幌アイヌ文化協会
- 更科源蔵
1968：『歴史と民俗 アイヌ』社会思想社
1976：『コタン生物記』Ⅱ 野獣・海獣・魚族篇 法政大学出版局
1982：『アイヌの民俗①』更科源蔵アイヌ関係著作集Ⅳ みやま書房
- 関 秀志他
1997：『北海道の自然と暮らし』北の生活文庫2 北海道
- 知里真志保
1959：「アイヌの鮭漁」『北方文化研究報告』14 北海道大学 (1973：『知里真志保著作集』3 平凡社 所収)
- 北海道文化財保護協会編
1963：「ししゃも祭り」『北海道の文化』5 北海道文化財保護協会

ペッカミノミ又は鮭漁に関する用具類を展示・収蔵している施設

ペッカミノミ又は鮭漁に関する用具類を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

◎北海道内

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| ●財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草2-3-4 |
| ●財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | 札幌市中央区北1条西7丁目 |
| ●旭川市博物館 | 旭川市神楽3条7丁目 |
| ●網走市立郷土博物館 | 網走市桂町1-1-3 |
| ●浦河町立郷土博物館 | 浦河町字西幌別273 |
| ●帯広百年記念館 | 帯広市緑ヶ丘2 |
| ●萱野茂・二風谷アイヌ資料館 | 平取町字二風谷 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●釧路市立博物館 | 釧路市春湖台1-7 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター 「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●新ひだか町アイヌ民俗資料館 | 新ひだか町静内真歌7-1 |
| ●標津町歴史民俗資料館 | 標津町字伊茶仁278 |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字弟子屈276-1 |
| ●苫小牧市博物館 | 苫小牧市末広町3-9-7 |
| ●名寄市北国博物館 | 名寄市緑丘222 |
| ●函館市北方民族資料館 | 函館市末広町 |
| ●美幌博物館 | 美幌町字美禽253-4 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷 |
| ●北海道大学植物園・博物館 | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道開拓記念館 | 札幌市厚別区厚別町小野幌 |
| ●北海道立アイヌ総合センター | 札幌市中央区北2条西7丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館 | 網走市字潮見313-1 |
| ●幕別町蝦夷文化考古館 | 幕別町千住114-1 |
| ●室蘭市民俗資料館 | 室蘭市陣屋町2-4-25 |

◎北海道外

- | | |
|--------------|------------------|
| ●東京国立博物館 | 東京都台東区上野公園13-9 |
| ●アイヌ文化交流センター | 東京都中央区八重洲2丁目4-13 |
| ●国立民族学博物館 | 吹田市千里万博公園10-1 |
| ●大阪府立近つ飛鳥博物館 | 大阪府河内郡南町大字東山299 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
ペッカムイノミ
【川神祭り—新しいサケを迎える儀礼】

2008年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

